

# 第3学年4組 学級活動学習指導案

平成18年11月22日(水)第5校時

指導者 鳥屋野中学校 教諭 荒木良則

## 1 題材

「同調(うわべだけの人間関係)から協調(信頼しあえる人間関係)へ」

～係活動の検討を通して、学級の団結力を高める取組～

## 2 題材の目標

学級の問題点を的確に把握し、話し合いの必要性をとらえることができる。

学級の団結力を高めていくために、係活動を見直し、活性化を図る必要があることがわかる。

学級独自の活動を行うために、本当に必要な係や活動内容を考え、積極的に話し合いに参加することができる。

学級として相互批判や事実追求に取り組むことが、本当の協力や援助が組織される好ましい人間関係であることに気付くことができる。

係の分担を決め、係長を中心に具体的な活動計画を立案し、実践することができる。

各系の活動を評価し、さらによい活動を行おうという意欲をもつことができる。

## 3 題材の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"><li>学級や学校の生活の充実と向上を目指して、身の回りの諸問題に関心を持ち、友達と協力して意欲的に取り組もうとしている。</li><li>生活や学習への適応及び健全な生活態度を身に付けるために、自己のよりよい生活を目指そうとしている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>学級の一員としての自覚をもち、友達と協力しながら、学級や学校の生活の充実と向上を目指して諸問題の解決について考え、判断している。</li><li>生活や学習への適応及び健全な生活を目指して、自己の課題を見出し、よりよい改善の方法を考え、判断している。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>話し合いの活動などにおいて、自分の考えを発表し、友達の考えと比較したり、役割を分担したりして活動することができる。</li><li>生活や学習への適応及び健全な生活を目指して、自己の立てた目標等に基づき、よりよい方法で実践することができる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>話し合いの活動や係・集会などの実践を通して、生活上の諸問題の解決方法を理解している。</li><li>生活や学習への適応及び健全な生活を送ることの大切さや実践方法などを理解している。</li></ul>

## 4 題材と生徒

### (1) 題材について

当校では、年度末に誰もが「この学級で本当によかった」と感じることができる学級づくりを目指している。それは、学習指導要領解説 - 特別活動編 - にあるように、「学級とは、生徒にとっても教師にとっても重要な場であり、学校生活の基盤として

の役割をもっている」からである。もちろん，ここでいう「本当によかった」と感じられる学級とは，悪いことをする者がおらず，仲間との軋轢を感じることもなく，平穩無事な生活を送ることができるということだけを意味するのではない。目標に向かって活動していくなかで，励まし合い，注意し合い，時にはぶつかり合い，互いに切磋琢磨しながら，相手をより深く理解していくことで，一体感がもてるような学級である。このような学級づくりを目指した活動として顕著なものは，校内体育大会や合唱コンクールなどの学校行事，学年委員会主催の学級対抗企画への取組であろう。

しかし，本題材では，係活動（本校では，当番活動と係活動は明確に区別している）の見直しを取り上げる。それは，後述する学級の実態から，イベント的な活動だけでは不十分であり，日々の生活を見直して学級独自の日常活動を創り上げ，それを実践していくことが，学級への所属感や一体感をより一層高めるために必要だと考えたからである。また，これから社会に出て行く生徒たちに，再度考えてほしいことだからでもある。家庭にも職場にも社会にも，その構成する人々によって，それぞれの役割や持ち場があるからこそ，円満で豊かな生活が生まれるように，学級集団にも必然的に係が存在し，その機能によって学級生活が豊かになり，楽しいものとなる。そのためには誰かがその任務を果たさなければならない。学級生活は，互いの協力と助け合いの生活であり，集団がより豊かになるための努力が不可欠なのである。

このような視点に立って，互いに厳しくこれまでの係活動を評価させ，これからの生活で本当に必要な係は何かを考えさせ，一人一人に学級での役割を果たさせたい。そうすることで，学級への所属感や一体感をもたせるとともに，仲間と協力すること，相手を理解することのよさを実感させたい。

この題材を通して，中学校学習指導要領解説第3章第1節学級活動の「1 学級活動の特質 (2)学級活動の特質」で述べられている「学級活動は，具体的な活動のねらいに沿って展開される生徒の自主的，実践的な活動である。そのためには，可能な限り生徒自らの発案，創意を大切に，活動計画の作成や実践を進めていくことが学級活動の特質である。このような特質を十分に生かし教育的な効果を高めるためには，それぞれの学級の実態に即した組織を設け，生徒一人一人が役割を分担し，活動計画を立てて実践する機会を豊富に用意する必要がある。特に，中学生の時期には，その発達段階として自主独立の要求が高まることから，生徒の自発的，自治的な活動をできるだけ尊重し，生徒が自らの力で組織を作り，活動計画を立てて，協力し合っ

て望ましい集団活動を行うように導くことが大切になる。」（下線は荒木による）を  
実践していく場としたい。

なお，指導要領の内容では以下の通りである。

#### 中学校学習指導要領 第4章 特別活動

##### 第2 内容 A 学級活動

(1)学級や学校の生活の充実と向上に関すること。

学級や学校における生活上の諸問題の解決

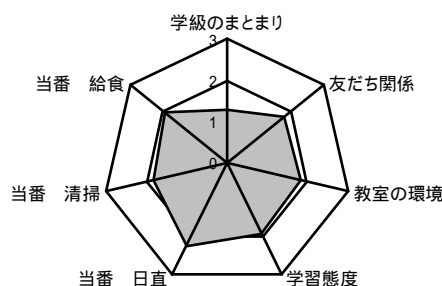
(2)個人及び社会の一員としての在り方，健康や安全に関すること。

望ましい人間関係の確立

## (2) 生徒について

真面目な生徒が多く、当番活動など決められた仕事はきちんとすることができる。ただし、自分たちで声を掛け合ってよりよくしていこうとする態度や生徒自らの発案による活動は十分ではない。また、大小いくつものグループが存在し、それぞれと一緒に活動することはできても、積極的に関わり合おうとする姿は見られない。4月に新学級としてスタートしたが、昨年度のクラスがよかったという生徒が多く、今のクラスについて「団結していない」や「みんながバラバラ」と感じている生徒が多い。その一方で、ほとんどの生徒が「みんなで一つのことに取り組んで団結力を高めたい」「卒業するときには『4組でよかった』と言えるようになりたい」と考えている。

右のグラフは、9月に生徒自身が学級を各項目について0点から3点までの4段階で評価した結果である。この結果を受けた「クラスの問題点について考えよう」という授業では、評価の低い「学級のまとめり」について、次のような感想が挙げられた。



- ・ 男子同士、女子同士はまとまっているけど、男女間のまとまりがない。
- ・ グループ内のまとまりはあるけど、まだ学級としては一つになっていない。
- ・ 全員で何かをすることがあまりない。
- ・ 行事などで少しずつまとまってきたけど、全体的に“4組”というまとまりがないような気がする。
- ・ 一人一人がまとまろうとしていない。自分勝手が多い。
- ・ 各グループに分かれてはいるが、それぞれ仲が悪いというわけではない。

ここからも、生徒たち自身が、学級としてのまとまりがないという問題意識をもってしているといえる。さらに、この評価は校内体育大会後に実施したものであり、行事を通して味わった団結することや学級がまとまって一つのことに向かうよさが、約2週間後には生徒の中からは薄くなってしまっていることが分かる。すなわち、行事で感じたからといって行動化してくれるだろうという期待はできないし、学級としての団結力を高めるためには、行事を通じた活動（振り返りの時間を含む）だけでは不十分であるということである。

また、昨年同様、私は、生活ノートにおける生徒の記述や個々の生徒との教育相談を通して、最も大きな問題は「生徒が他人とうまく関わることができないという苦手な部分を避けているために学級としてのまとまり感がない」ことだと感じている。仲間に話しかけても期待している反応が返ってこなかったり、自分で想像していたとおりの反応で仲間に受け入れられなければ自分が傷つくので、関わらない方が楽だと考えてしまうのだろう。各グループ内でも互いの違いを認め合っているわけではないので、自分を出すことができないし、些細なことでグループを離れることもある。学級全体が協調（信頼しあえる関係）ではなく同調（うわべだけの関係）しているだけであると言わざるを得ない。

このような学級の実態を改善し、最後にはこの学級でよかったといえるようになるために、学級としてのまとまり感を高めることを生徒に明確に意識させたいと考え、目前に迫った合唱コンクールの目標を全員で決める話し合いを設定した。実は、どの生徒も最後の合唱コンクールに対する意欲が非常に高いために、全員一致で「最優秀賞をとる」という目標だけになってしまい、合唱コンクール後に何も残らないのではないかと危惧していた。実際、大半の生徒から出てきた目標は最優秀賞を取ることだけであったが、一部の生徒から「最優秀賞をとっても、クラスの団結が高まらなければ意味がない」という発言があり、「最優秀賞を取って、クラスの団結を高めよう」という目標に全員一致で落ち着いた。そのため、練習は、「(個人攻撃ではなく)みんなで最高の合唱をつくるための意見」が重視されるなど、学級としての一体感のある雰囲気で行われた。10月27日に行われた合唱コンクールでは、残念ながら最優秀賞とはならなかったが、後日の振り返りでは次のような感想や仲間へのメッセージが挙げられた。

- ・ 賞が取れなかったのはすごく悔しいけど、40人全員で歌えたことが何より嬉しかったし、楽しかった。
- ・ 練習や本番で、今まで以上にクラスが団結できたことが一番良かった。
- ・ はじめはクラスがバラバラだったのに、本番ではクラスが一つになることができ、とても感動した。
- ・ みんなで歌ったこと、みんなで悩んだこと、みんなで一つの目標に向かえたこと、全部、ありがとう。
- ・ 本番で最優秀賞は取れなかったけど、それ以上の「クラスの絆」が得られたと思う。
- ・ このメンバーで歌えてよかった。
- ・ 本番ですばらしい曲が完成できたのは、みんなでぶつかり合ったからでもあると思う。本番前、円陣を組んだとき、みんなが一つになったように思えて、とても嬉しかった。
- ・ 最優秀賞は取れなかったけど、今までの練習でクラスの団結が高まったと思う。これからは大きな行事はないけど、卒業までもっとこのクラスの絆を深めて、最後によかったと思えるクラスでいられるようにがんばりましょう！
- ・ 賞は取れなかったけど、この合唱コンクールで、自己の向上、そしてクラスの団結がより確かなものになったと感じた。あと何ヶ月かで離れなければならなくなるけど、そのときまでにこのクラスでしかできないこと、このクラスでしか表現できないことを、たくさんできれば、一生忘れられないものになると思う。

体育大会と異なり、合唱コンクールは学級単体としての活動であるため、どの生徒も、このような気持ちを、それまで以上に強く感じていた。また、全員でこの気持ちを共有できるように、お互いに伝え合う場面を設定したり、掲示したり、学級だよりに全文掲載したりすることで、学級として、もっとまとまりを強くしようという雰囲気になってきている。本題材は、このようなタイミングで、その雰囲気をさらに高めていこうとするものである。

## 5 指導の構想

### (1) 係活動について

学習指導要領解説では次のように述べられている。

(学級内の組織で活動する際には)教師の適切な指導・助言の下に、学級としての努力目標、組織を作る必要性やねらい、活動の内容や方法などを生徒に十分理解させ、生徒の縦意によって編成されることが大切である。なお、組織とその活動は、学級独自のものであり、生徒会の下部組織ではないが、生徒会の組織との関連を十分に配慮することが必要である。(中略)生徒は、こうした活動によって、有意義な学級生活を経験するだけでなく、集団への所属感を高め、実践活動の中で、協力、親和、責任、友情などのもつ意義を体得することができるからである。 (下線および( )は荒木による)

換言すれば、学級内の係の位置づけが不明確なまま、単に必要と思われる係を挙げ、生徒に仕事を分担させるだけでは不十分だということである。係活動は教師の押しつけではなく、適切な指導助言の下に、生徒の協議に基づくものでなければならないのである。

係活動は普通は年度当初に検討し、学期ごとなどに分担を変えることが多い。もちろん、一年間通して任務に精進させることも考えられるが、学級の団結力のよさを味わったこの時期に、生徒自身が、係活動へのこれまでの取り組み状況や新たな分担だけでなく、組織から見直し、必要に応じて係の新設・廃止を検討することが必要であると考えた。

また、各係の人数については、次のように考えている。これまでは8名の係がいくつかあったが、責任感があまり湧かないことや集まる時間がとりにくいなどの問題点が挙げられていた。そこで各係が機動力をもつことができるような人数にする必要があるだろう。ただし、1～2名といった少人数の実践は長続きも難しく、よいアイデアも浮かびにくい。また、活動内容によっては負担が大きくなりすぎる。自主性があり積極的な生徒は着実に活動していけるだろうが、そうでない生徒は活動できなくなるだろう。それを見て見ぬふりをする学級では、団結力などは決して生まれない。仲間と協力し、励まし合いながら、活動させたい。このことは、今回の話し合いに限らず、数ヶ月という単位で続いていくこの活動の見直し(PDCAサイクル)の際に、個人攻撃のような印象をもたせないための配慮でもある。

### (2) 話し合いまでの経緯

これまで、お互いに牽制し合うような雰囲気があり、何かを思いついてもそれをしているのだろうかと思ってしまう状況があったが、合唱コンクールを通して、「一つのことみんな一生懸命に取り組む」「全員で困難を乗り越える」ことが学級の団結力を高めることになるという雰囲気になってきた。

そこで、班長会（班長，評議委員，学級書記）を開き，これからさらに学級の団結力を高めていくために，3年4組独自の活動をすることを提案した。すると，予想通り，レクをやることが提案されたが，これまでの活動を振り返らせ，レクをするだけでは本当の団結力は高まらないことを確認し，学級の問題点とその改善策を考えさせた。すると，レクの企画が出てこないこと，時間を守れないこと，掲示物に工夫がないこと，ゴミが落ちていても誰も拾おうとしないこと，など様々な種類の問題点が挙げられた。そして，これらの改善策として，係活動を見直してみようということになった。ここでは，

- ・ 現在の係活動が停滞しているのは，本当に必要な係を設置していないからではないか。
- ・ 係の数が少ないため，構成メンバーが多すぎて活動しにくいのではないか。
- ・ 係の代表者の自覚がないのではないか。

などの問題点が出された。

しかし，この観点で，例えば「どうしたら係活動が活発になるか」という議題で，学級の話し合いを設定し，生徒たちだけに任せれば，おそらく，「一人一人が自覚をもって取り組む」や「お互いに注意し合う」といったあいまいな提案がなされ，おぼろげな係の種類が挙げられ，他人の推薦を期待したり，やりたくない係を押しつけられて終わってしまうだろう。まして，教師主導でこうなさいという指導では，やらされている感が強くなり，学級としての一体感は生まれにくい。そこで，「学級になぜ係が必要なのか。本当に必要な係とは何か」「係活動を活発にし，長続きさせるためにはどのような組織と方法が必要なのか。これまでの経験や身の回りの組織でよい例はないか」について，さらに班長会での議論を進めさせた。すると，生徒会の組織に関連した係を考えられないだろうかという結論に達した。当校の生徒会活動は活発であり，どの専門委員会に所属している生徒もしっかりと活動しているので，うまく機能するだろうし，各専門委員を学級の中で生かすことにもなると考え，学級全体に提案することを認めた。具体的には，この案にいたるまでの考えを学級全体に説明し，具体的な係の設置や分担についての話し合いを行おうと計画した。

### (3) 話し合いの展望

話し合いを通して，学級独自の取組としての係活動が活発に行われるようになり，生徒の学級への所属感が高まることで，団結力が高まっていけばよいのであるが，それだけでは3月に本心から「4組でよかった」とはならないだろう。たしかに，ここで，係活動の見直しを徹底的に行い，活動を再スタートし，ある程度の短期間で活動を自己評価し，改善し，実践していくことをくり返していけば，個々の生徒が学級への貢献を実感し，学級への所属感や一体感をもてるようになるだろう。しかし，本当の「仲間と協力するよさ」や「相手を理解するよさ」を実感させることはできない。それは，4(2)で述べたように，同調（お互いに無関心で，当たり障りのない浅い関係）から協調（信頼しあえる人間関係）への変容なくして，それらの実感は得られないからである。これでは，本当の団結力は高まらないだろう。

そこで，今回の話し合いでは，同調から協調への変容を促すために，本音のぶつ

り合いを組織する。具体的には，合唱係を提案させ，合唱コンクールでやり残したことで，すなわち，最優秀賞への再チャレンジについて議論させる。自分たちの思いを実現する係について考えさせることで，熱い思いの出る話し合いを行わせるのである。「合唱コンクールでせっかく心をつにしたのだから，もっとよい合唱ができるはずだ」「審査員にもう一度来てもらおう」「組曲を歌ったのだから，もう一曲歌ってストーリーを完成しよう」といった賛成派の生徒もいるだろうし，「合唱コンクールはもう終わった」「他のクラスがやらないと燃えない」「これから新しい曲をやっても完成できない」などの反対派もいるだろう。さらに，「歌うことは嫌いだ」「そんなことに時間を使いたくない」という本音も出るだろう。これらの本音に対して，賛成派の生徒も「大変だけど，苦しいことをみんなでやったから，あんなに一つになれた。だから，もう一度みんなで歌おう」という意見を，建前ではなく本心から出し，ぶつかり合ってほしい。

こうして，初めて協調するよさを味わった合唱をきっかけとした話し合いを組織することで，本音の議論を生成させ，同調から協調への変容を促したい。もちろん，最終的には「もう賞のことはいい。目指していたのは賞じゃなくて，団結力を高めることだ。苦しいけど一生懸命練習して，先生方に見てもらおう」といった考えに収束することを期待している。

ただし，このような意図的な指導計画通りに話し合いが進まなかったとしても，決して押しつけるべきではないと考える（ただし，適切な助言が必要になることは当然ある）。それは，生活に密着した生徒自身の問題として，関心のある，切実な問題としてとらえられていれば，話し合いが空回りせずに，議題は掘り下げられ，深みのある議論となるはずだからである。たとえ合唱係は不要だという結論になったとしても，ここで行った議論は，活動は本気で行わなければならないといった意識につながり，他の係活動によい影響を与えることになる。そして，合唱以外の取組を提案し，議論し，実践していくチャンスはまだ残っているのである。

## 6 指導と評価の計画

次	ねらい	評価規準( B ) 【評価方法】	評価の観点				十分満足できる ( A )	努力を要する ( C )への支援
			関	考	表	知		
第1次	学級の問題点を的確に把握し，話し合いの必要性をとらえることができる。	・ 「学級のまとまりがない」状況を「もっと団結力のある学級に，みんなの力で改善していく」ための話し合いであることを把握し，その必要性をワークシートに記述する。 【ワークシート】					・ 学級のまとまりが感じられない具体的な場面を挙げたり，団結力のある学級にしたいという気持ちや自分のなすべきことをワークシートに記述している。	・ 合唱コンクールで感じた一体感をこれからの生活の中でさらに高め，卒業するときに，3 - 4でよかったと思えるようになるための取組であることを伝え，話し合いへの参加意欲を高める。

	<p>学級の団結力を高めていくために、係活動を見直し、活性化を図る必要があることがわかる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 班長会の提案「係活動を見直す意義」を聞き、話し合いの目的をワークシートに記述する。 【ワークシート】</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学級の団結力をさらに高めていくために、班長会からの提案を重要なものとして認識するとともに、それを自分のこととしてワークシートに記述している。</li> </ul>	
	<p>学級独自の活動を行うために、本当に必要な係や活動内容を考え、積極的に話し合いに参加することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要な係について自分の考えをもち、ワークシートに記述し、理由と併せて発表する。 【ワークシート】 【発表の様子】</li> <li>・ 他者の意見を聞いて、よりよいと思う係とその活動内容を具体的に考え、発表する。 【ワークシート】 【発表の様子】</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒会専門委員会の活動内容を想起し、学級でも必要な活動は何かを具体的に考え、現在の係と対比しながら、係の新設・廃止について自分の考えを述べる。</li> <li>・ 他者の意見を聞いて、各係の具体的な活動内容を現実的に考え、みんなで取り組むべきことは何かを発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分はどうしたいのか、それを実現するには、何をすればいいのかを考えるよう促す。</li> <li>・ 他者の意見について、自分はどう思うのかを考えながら聞くように促す。</li> </ul>
第2次 (本時)	<p>学級として相互批判や事実追求に取り組むことが、本当の協力や援助が組織される好ましい人間関係であることに気付くことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 合唱係の新設について、自分の考えを述べる。 【発表の様子】</li> <li>・ よりよい学級、よりよい人間関係を築いていくためには、ぶつかり合う話し合いも必要であることに気付く。 【ワークシート】</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学級の団結力を高めるという目標を常に念頭に置きながら、自分の正直な気持ちを仲間に理解してもらえるように伝える。</li> <li>・ 学級の一員として、諸問題の解決を図るためには、仲間となれ合いの関係では不十分であることを知り、同調と協調の相違点を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これから3ヶ月間、合唱練習をしていくことについて考えるよう促す。</li> <li>・ このような厳しい話し合いをした理由を考えるよう促す。</li> </ul>
第3次	<p>係の分担を決め、係長を中心に具体的な活動計画を立案し、実践することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ それぞれの係の必要性を把握し、自分が所属したい係を選び、活動計画を立てることができる。 【ワークシート】</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ それぞれの係の必要性を把握し、好き嫌いの観点だけでなく、学級のために自分ができることを考えて所属する係を選び、積</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分がやりたいことは何か、みんなのためにできることは何かを考えてみるよう促す。</li> </ul>

						極的に活動計画を企画する。	
第4次	各系の活動を評価し、さらにより活動を行おうという意欲をもつことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの系の活動を評価し、改善すべき点を具体的に述べる【発表の様子】【ワークシート】</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの系の必要性をもとに、活動内容を適切に評価し、うまくいっている点については賞賛の言葉を贈り、うまくいっていない点については厳しく指摘することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>みんなで決めたことを確認し、自分自身はしっかり活動できたのかを振り返って考えさせる。</li> </ul>

## 7 本時の学習

### (1) 本時のねらい

学級として相互批判や事実追求に取り組むことが、本当の協力や援助が組織される好ましい人間関係であることに気付くことができる。

### (2) 本時の評価規準

技能・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>合唱係の新設について、自分の考えを述べる【発表の様子】</li> </ul>
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>よりよい学級、よりよい人間関係を築いていくためには、ぶつかり合う話し合いも必要であることに気付く【ワークシート】</li> </ul>

### (3) 本時の指導の構想

学級の団結力を高めるために3年4組独自の取組を行うことの必要性と係活動見直しの意義、前時までの話し合いの結果（これからの係活動の方法）を確認する。その際、学級のまとまりがないという問題点を改善していくためには、合唱コンクールを通して学んだ「一つのことによってみんなで一生懸命取り組むこと」「全員で困難を乗り越えること」「みんなで話し合って分かり合うこと」が重要であることを押さえさせる。その後で、合唱係の新設についての提案を確認するとともに、合唱係の必要性はこれまでの学級の様子を根拠となっていることを全員にとらえさせたい。

これから合唱の練習をしていくことについて、賛否両論の意見が出されることが予想されるが、学級全体をこれからもっとよくしていくための話し合いであるという雰囲気や困気を大切に。また、真剣な議論を通して、合唱係以外の係活動への意識も高め、「私たちの学級全員で考えた係活動」という意識を育みたい。

このような話し合いを組織して、学級への所属感を高め、団結力を高めていくとと

もに，同調から協調への変容，すなわち，「望ましい人間関係の確立」に迫りたい。

#### (4) 本時の展開と評価

学習活動	教師の働きかけと生徒の反応	指導上の留意点と評価
<p>1 前時の確認をする。</p> <p>2 提案された係について，意見交換する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>前回話し合ったことを確認しよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ もっと団結力のある学級になりたい。</li> <li>・ 団結力を高めるために4組だけの活動をしたい。</li> <li>・ 話し合いの結果，係活動を見直したのだなあ。</li> <li>・ たしかに，みんなで考えた係活動に一生懸命取り組めば，学級がもっと盛り上がるし，思い出にもなるだろうなあ。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>他に，これからの4組に必要だと思う係として，合唱係が提案されていました。提案者は，その理由をもう一度発表してください。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ あれだけみんなで一つになれたのに，もうその雰囲気はなくなってきてしまっている。だから，ぜひもう一度みんなでがんばってみたい。</li> </ul> <p style="text-align: center;">合唱をもう一度やりたい。 え～，またやるの。面倒だ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>合唱係について，意見を述べてください。</p> </div> <p>(賛成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 合唱コンクールでクラスが一つになれたのだから，もう一度挑戦して一つになりたい。</li> <li>・ 組曲を完成したい。</li> <li>・ 選曲するときに，同じくらい票を集めた曲をやってみよう。</li> </ul> <p>(反対)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 練習する時間がない。</li> <li>・ 難しい曲だから完成は無理。</li> <li>・ 他のクラスがやらないのだから，やる気が出ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回までの話し合いは何のために行ってきたのかを確認する。</li> <li>・ 本時の話し合いは，なぜ行うのかを確認する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他の係が提案されることも予想されるが，本時では合唱係についての議論を優先させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 挙手を求め，意見を出させるが，場合によってはバズセッションを行う必要もあることを司会の生徒に指導しておく。</li> <li>・ 全体の雰囲気が，面倒だからやりたくないとならないように，賛成派の生徒から発表させる。</li> <li>・ 本音での議論が進むよう，反対派の生徒が意見を言いにくい雰囲気にならないよう注意する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 20px;"> <p>・ 合唱係の新設について，自分の考えを述べることができる。 【発表の様子】</p> </div> <p>C段階の生徒への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ これから3ヶ月間，合唱練習を</li> </ul>

<p>3 話し合いをまとめ、決定事項を確認する。</p>	<p>学級の団結力を高めていくために、合唱係を新設して、2月には発表できるように、これから練習していくことに決まりました。 (合唱係が提案されましたが、残りの時間を考えると、合唱コンクールのように完成できないようなので、合唱以外の何かをみんなでやることになりました。何に挑戦するかをこれから考えていきましょう。)</p>	<p>していくことについて考えるよう促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>話し合いがうまく進まなければ、無理にまとめさせない。</li> </ul>
<p>4 話し合いの振り返りをする。</p>	<p>今日の話し合いを振り返って、自分の意志や気付いたことをワークシートに記述しなさい。</p>	<p>よりよい学級、よりよい人間関係を築いていくためには、ぶつかり合う話し合いも必要であることに気付く。【ワークシート】</p> <p>C段階の生徒への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>このような厳しい話し合いをした理由を考えるよう促す。</li> <li>係活動の必要性やこれからの活動にかける意気込みも記述させる。</li> </ul>

は、司会の生徒  
 は、教師 を示す。

### 〔本指導案を作成するにあたって、参考にした書籍・資料〕

- ・「中学校学習指導要領」, 文部省, 大蔵省印刷局, 1998.12
- ・「中学校学習指導要領解説 - 特別活動編 - 」, 文部省, ぎょうせい, 1999.9
- ・「改訂 中学校学習指導要領の展開 特別活動編」, 森嶋昭伸, 鹿嶋研之助編著, 明治図書, 2000.2
- ・「教育課程の改善の方針, 各教科等の目標, 評価の観点等の変遷」, 国立教育政策研究所, 2005.3
- ・「平成 14 ~ 17 年度小・中学校教育課程研究集会資料」, 新潟県教育庁義務教育課, 2002 ~ 2005
- ・「人間力を高める これからの特別活動 ~ 創り出そう! 新しい「公共」, しなやかな「個」~」, 第 50 回全国特別活動研究協議大会新潟大会大会提言
- ・「仲間とかかわりを深める話し合い」, 新潟市立鳥屋野中学校, 第 50 回全国特別活動研究協議大会新潟大会中学校学級活動授業公開資料